

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 34人

② 算数 34人

5 留意事項

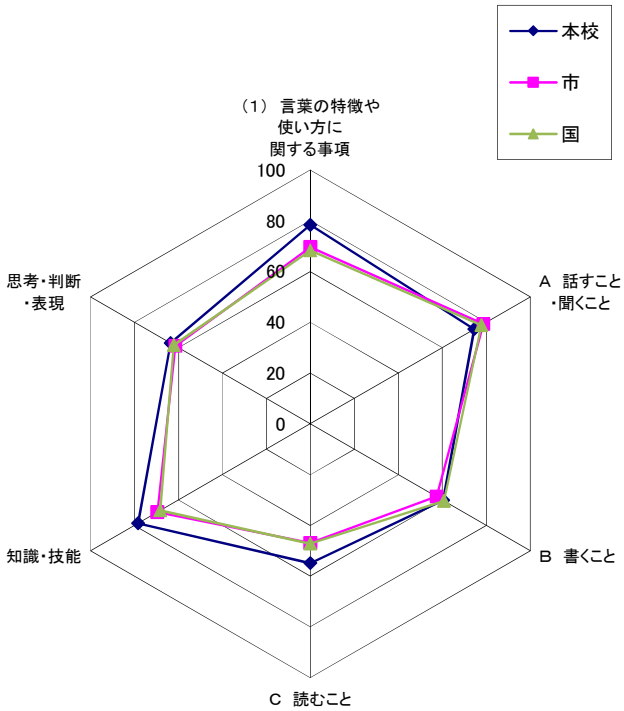
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	78.4	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	74.5	78.7	77.8
	B 書くこと	60.3	57.3	60.7
	C 読むこと	54.9	46.9	47.2
観点	知識・技能	78.4	69.6	68.3
	思考・判断・表現	63.6	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

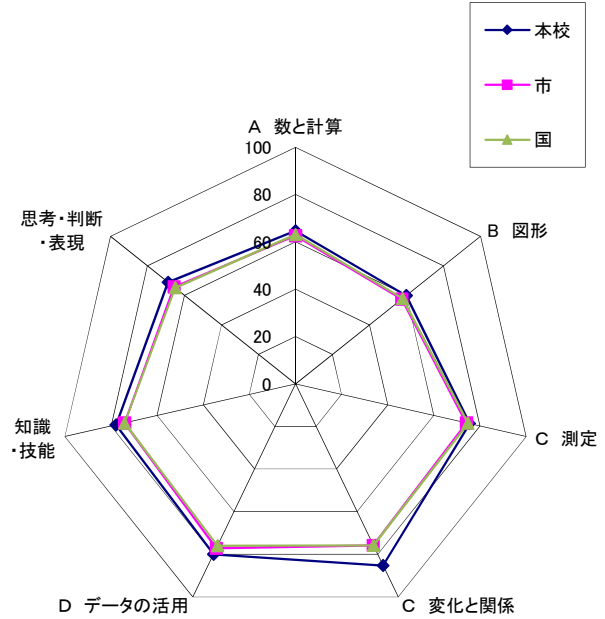
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○平均正解率が国や県を約10ポイント上回った。特に、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、国や県の正答率を大きく上回り、特に県の平均は最低でも10ポイント上回り、漢字の力が定着している。 ○文章中の語句と同じ使い方をするものを選ぶ問題でも、県の正答率を約8ポイント、国の正答率を約7ポイント上回り、良好な結果となった。	・既習の漢字については、繰り返し学習することで更なる定着を図っていききたい。文章を書くときに漢字が使えないので、各教科や日常生活で指導していききたい。 ・修飾と被修飾との関係を捉えることが低かったので、日々の生活でのさまざまな場面で指導していききたい。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は、県を2.5ポイント、国を3.3ポイント下回っている。特に、目的や意図に応じ、資料を使って話す問題では、県の平均を7.4ポイント、国の平均を7.5ポイントと大きく下回った。 ○スピーチの中で用いた資料の目的を説明する問題では、県の平均を3.1ポイント、国の平均を1.6ポイント上回っている。	・国語や総合的な学習の時間等で、資料を用いて話す場を設け、この資料から何が分かるかを明確にして、スピーチの構成を考えさせたい。 ・1分間スピーチや話し合い活動など自分の意見を発表する場で、自分の意見を相手に分かりやすく伝えられるよう指導していく。
B 書くこと	●平均正答率は、県・国ともに0.4ポイント下回った。特に、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、県を3.2ポイント、国を6ポイント下回った。 ○文章の一部を、いくつかの条件を満たしながら書き直す問題では、県を2.4ポイント、国を5.2ポイント上回り、目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるよう、書き表し方を工夫することができている。	・自分の主張を、最初と最後の段落に書くという構成にすると主張する内容が強調されることを書く単元で再度指導していく。
C 読むこと	○平均正答率は、県を9.1ポイント、国を7.7ポイント上回った。特に、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題では、正答率が県を19.8ポイント、国を18.5ポイントと大きく上回り、文章全体を概観して効果的に読む力が定着している。	・説明文を読む際には、文章だけでなく図表を結び付けて必要な情報を見つけるように指導する。 ・説明文では目的を意識して、中心となる語や文を見付けて決められた文字数で要約する力をつけていききたい。

宇都宮市立中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.7	62.6	63.1
	B 図形	59.8	57.5	57.9
	C 測定	75.5	74.1	74.8
	C 変化と関係	85.3	75.8	75.9
	D データの活用	80.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	77.8	74.1	74.1
	思考・判断・表現	68.9	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○四則計算の決まりをよく理解しており、平均正答率は、県を3.0ポイント、国を1.6ポイント上回っている。特に示された式の意味を読み取り、活用する問題の正答率が高く、式とその結果を日常生活の場面に即して判断することができている。	・立式するだけでなく、それを言葉や図などで表現する課題に多く取り組ませることで、他者の考えを理解して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしていく。
B 図形	○平均正答率は、県を3.6ポイント、国を1.9ポイント上回っている。特に直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選択する問題では市を6.0ポイント、県を4.0ポイント上回った。図形の性質や特徴を捉え、問題の中で活用することができている。 ●複数の図形を組み合わせた平行四辺形について面積の求め方と答えを記述する問題の平均正答率は市を1.1ポイント、国を1.0ポイント上回っているものの、正答率が47.1ポイントと全体の中で最も低かった。自分の考えを根拠を示してわかりやすく説明することに課題が見られる。	・具体物による操作活動を通して、それぞれの図形の性質を理解し、図形に対する興味・関心を高めることができるようにする。 ・小さな三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求めるなど発展的な学習活動を多く取り入れ、学習したことをどのように生かせば解決できるのか、考えを深める課題に取り組ませるようにする。 ・対話的な学び合い活動の時間を設定し、考え方や求め方を友達に分かりやすく説明したり、友達の意見を聞いて自分の考えを深めたりできるようにしていく。
C 測定	○平均正答率は、市を2.0ポイント、国を0.7ポイント上回っている。特に直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選択する問題の正答率が高く、図形の面積を量の保存性や加法性を基に捉え、比べることができている。 ●条件に合う時刻を求める問題では、平均正答率が市を1.1ポイント、国を1.0ポイント下回っている。時刻の計算技能の定着がやや不十分である。	・日常生活の中で、意図的に時刻や時間を求めさせ、計算できるようにしていく。
C 変化と関係	○平均正答率は、市を10.5ポイント、国を9.4ポイントと大きく上回った。速さが一定であることを基に道のりと時間の関係について考察したり、速さと道のりを基に時間を求める式を表したるする問題の正答率がそれぞれ、94.1ポイント、97.1ポイントと著しく高い。速さ、道のり、時間の関係をよく理解しており、日常生活の場面でその関係性を基に式で考えることで問題を解決することができている。	・公式として覚えるのではなく、式から求められた答えが何を表しているのかを考える授業を常に展開し、説明できるようにしていく。
D データの活用	○平均正答率は、市を4.4ポイント、国を4.0ポイント上回っている。特に特定の集団の本の貸し出し冊数を棒グラフから読み取る問題では全体の中で正答率が94.1ポイントと最も高かった。棒グラフの特徴や縦軸、横軸の意味を問題に合わせて理解し、示された棒グラフから数量を読み取ることがよくできている。 ●帯グラフから割合の違いが一番大きい項目を選択する問題は、平均正答率が市を7.0ポイント、国を6.8ポイント上回っているものの、棒グラフの問題と比較すると58.8ポイントと低かった。帯グラフの中で複数のデータを比較したり、問題で示された内容を帯グラフの中で読みとったりするなど、帯グラフの活用にはやや課題が見られる。	・算数で学んだ、棒グラフや帯グラフを読み取ったり活用したりする力を、「総合的な学習」や児童会活動など、様々な領域や活動に生かし、思考力、判断力や表現力の向上を図っていく。 ・問題で聞かれている内容を勘違いして答えていることがあるので、落ち着いて読むこと、見直しの方法など再度確認する。

宇都宮市立中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」では、100%の児童が食べていると回答し、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では、97.1%の児童が肯定的回答であった。両項目共に県・全国を上回ったことから、基本的な生活習慣を身につけている児童が多いことが分かった。しかし、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目では、県を4.8ポイント、全国を1.8ポイント下回った。体育の保健領域では生活習慣について学ぶため、より良い生活習慣についての知識や理解を深めていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」では、肯定的回答をした児童が91.2%おり、県を9.3ポイント、全国を10.9ポイント上回った。将来就きたい職業やなりたい自分の姿を考え、希望をもって生活している児童が多い。しかし、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の項目では、肯定的回答が県・全国の両方で下回った。夢や希望は抱いているが、それに向けて努力することには消極的なため、道徳や総合、学級会活動等の学習を通して、自分の力を信じさらに伸ばそうと努力する態度を育てていきたい。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」では、97.0%の児童が肯定的回答であった。県を2.0ポイント、全国を3.1ポイント上回った。友だちや下級生に対して思いやりの心をもって接することのできる児童が多いことが分かる。学級の係活動・当番活動のみならず、委員会活動や縦割り班活動等様々な活動を通して、お互いのよさを認め、互いのよさを伸ばしていけるよう支援していきたい。

●「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」では、2時間以上行っている児童が41.2%おり、学級の半数近くの児童が平日2時間以上ゲームを行っていた。県・全国と比較すると、少ないポイントではあるが、改善を図る必要があると考え。ゲームを行う時間を見直すきっかけを作るために、市教育委員会から発行されるリーフレットなどを活用して保護者懇談会での啓発を行うと共に、児童自身にも改善していく意識をもたせていきたい。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、「あてはまらない」と回答した児童が5.9%いた。全ての学習活動の場面で「いじめは決して許される行為ではない」ということを指導すると共に、学校で行われているいじめ撲滅に向けての取り組みについては、学校便りやHPなどで家庭に発信することで、学校・家庭・地域が一体となっていじめ撲滅に向けての意識を高めていく。

宇都宮市立中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探求的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「国語の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が61.8%で、県や国の平均を上回っている。 ・「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が73.6%である。また、「問題に対してあきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた児童の割合は、85.3%で、県や国の平均を上回っている。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とについての肯定的回答の割合は、85.3%と市や県を上回っている。
基礎的な学習内容の定着のための取組	全教員による朝の学習支援、定期的なステップアップテストの実施、AIドリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	・算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、77.8%で県や国の平均を上回っている。 ・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、78.4%で県や国の平均を10ポイント近く上回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習のに取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童は79.4%と県・全国の平均を上回った。 ・「1日あたりどれくらいの時間勉強しているか」という問いに対して、1時間以上と回答した児童が70%で国の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の調査において、文章の構成や展開を考えて書く問題で、平均正答率が県・国を下回り、課題が見られた。	構成や展開を考えて「書く」活動の充実	構成の効果を理解し、自分の思いを伝えるための最適な構成を考え、文章を書けるような指導を行う。 授業の中で、自分の考えを書き表す活動を意図的に取り入れていく。